

現代ギリシア語の教科書に思う

山口 喜雄

日本人には日本語で書かれた教科書ほど有り難いものはない。苦勞しながらも最後まで読み通せば、ともかくギリシア語とはどういう言葉であるかを学ぶことができる。今やそんな幸福な時代を迎えつつあると思う。

言葉はもともと生活文化全般のコンテクストの中で伝達手段として用いられるものだから、話し言葉から入る現代ギリシア語の教科書を書かれた著者たちの見識にまず敬意を表したい。しかし教科書というものは版元による頁数などの制約の中で一通りのカリキュラムを終えねばならず、いきおい最小限の文例で教授せざるを得ない。学習者は往きつ戻りつ復習したり別の教科書の文例で力を試して納得したいので、教科書は多いほどよい。

これらの教科書でギリシア語を身につけた人はギリシアに出かけ片言ながらもギリシア人と話し好奇心を増幅させて帰ってくる。同時に現地で何度か戸惑うような場面に出会わせ、いくつかの疑問も持ち帰っていよう。ギリシア人との時間感覚のズレもその一つではなかろうか。例えば το απόγευμα は正午から日没までの筈なのに午後2時は στις δύο το απόγευμα とは云わず、普通 στις δύο το μεσημέρι と云う。Απόγευμα は Σιέστα 以降7時頃まで使われる。従って το βράδυ はそれ以降となる。日没前を「夕方」と云い日没後を「夜」と云う日本の常識から相当ずれ込んでいる。では一体ギリシアの夜はいつ来るのか？ギリシア時間に伴って挨拶も Καλημέρα はシエスタまでしか用いず、シエスタ以降 Καλησπέρα まででは一日中使える Γεια σας か Χαίρετε を用いる。Καλή όρεξη は食事に行く／帰る人に云う言葉で、「たくさん召し上がれ」など食事中的言葉として使うのではない。

その他このような生活習慣の違いからくるギリシア語ならではの用法を教科書に盛り込むスペースがとれないようなので、別途、習慣的な用法を「ギリシア語便覧」や「ギリシア広文典」などの形で補われることが必要と思われる。